

群 教 セ	G02 - 03
	平 17.230集

地域調査学習における学習支援ソフト 「小幡のなぜ?を調べよう!」の作成と活用

特別研修員 今村 茂 (甘楽町立第二中学校)

〈研究の概要〉

本研究は、中学校社会科地理的分野「身近な地域調べ」の学習において、マルチメディアを活用したWeb形式の学習支援ソフト「小幡のなぜ?を調べよう!」を作成し、その活用方法を検討したものである。本教材は、生徒が興味・関心をもって地域学習に取り組むことができ、また課題作りの支援になるように、様々な地域素材の画像や動画などをまとめたものである。さらに本教材を活用した授業実践を行い、その有効性を検証した。

キーワード 【社会 - 中 地理 マルチメディア 地域学習 地域教材】

主題設定の理由

中学校社会科地理的分野の学習では、初めに地球儀の扱い方や地図の読解など、地理的事象を理解する上での基本的な技能を身に付けさせ、その後日本の諸地域の特性・世界の諸地域の特性について学習を進めていくことになる。その導入段階として、身近な地域を地図や写真などを使って学習したり、実際にフィールドワークを行って調べたりすることは、地図の読解などの基本的な技能の確認・定着を図るとともに、さらに広い地域への学習を進める上での基礎作りになると考える。

本校の位置する甘楽町小幡は、古くからの町並みを随所に残す城下町として広く知られており、国指定史跡の「楽山園」や日本名水百選に選ばれている「雄川堰」など、数々の名所・旧跡が身近に散在する。また、雄川の河岸段丘上に位置する高台では、野菜や蒟蒻などの畑作やりんごなどの果樹栽培が盛んであるという地理的特色がある。しかし、生徒にとってはあまりにも身近すぎることもあり、思った以上に地域の史跡や特色を知らないという生徒が多いのが実態である。遠くからの観光客が訪れるような場所ですら、登下校時に毎日目にしているにもかかわらず、観光客が何を見に来ているのか分からないという生徒もいる。小学校でも校外学習で地域の公民館や工場などを見学しているが、史跡や地形などから地域の歴史や地理的特性について考えるとといった視点では学習をしていない。

このような実態の中でフィールドワークなどの学習を行っても、ただ外に出て学習してきただけ

で、肝心なものを見落としてしまうという現状があり、観察をもとに地域の特性に気付かせるというねらいを達成することは難しいと考える。本単元のねらいを達成するためには、事前学習においてフィールドワークを行う際の視点を明確にしておく必要がある。そして実際に観察する際には、ただ眺めるだけでなく生徒が興味・関心をもとにした明確な視点を持って、主体的に学習を進めていけるようにさせなければならない。

しかし、限られた時数の中でフィールドワークやまとめに多くの時間を割くことは難しいため、十分な学習効果をあげるのは困難である。そうした課題を解決する手だての一つとして、事前学習において地図や写真などの多くの資料を提示したり、様々な制約から実際には観察に行けない場所の補足説明をしたりするため、また生徒が意欲的に学習に取り組む手だての一つとして、マルチメディアを用いた学習支援ソフトを作成し、活用するのは大変有効であると考えられる。

そこで、導入としてマルチメディアを用いた学習支援ソフトを活用して生徒の興味・関心を高めさせる。自らの学習課題を設定する上での手助けとなる内容と構成を工夫した学習支援ソフトを用いれば、生徒が意欲をもって自ら学習活動を進めることができ、地域の特性などの地理的事象に対する関心を高めていくことができると考え、この主題を設定した。

研究のねらい

中学校社会科地理的分野「身近な地域を調べよ

う」の学習において、生徒が意欲をもって自ら学習に取り組み、地域の特性などの地理的事象に対する関心を高めていくことを目的とするマルチメディアを活用した学習支援ソフト「小幡のなぜ？を調べよう！」を作成し、授業実践を通して教材の有効性を明らかにする。

研究の見通し

中学校社会科地理的分野「身近な地域を調べよう」の学習において、マルチメディアコンテンツを活用して内容と構成を工夫した学習支援ソフト「小幡のなぜ？を調べよう！」を授業で活用することにより、生徒が意欲をもって自ら学習活動に取り組み、地域の特性などの地理的事象に対する関心を高めることができるであろう。

研究の内容

1 「小幡のなぜ？を調べよう！」の概要

(1) 基本的な考え方

中学校社会科地理的分野「身近な地域を調べよう」の学習において、生徒の興味・関心を高め、主体的な学習活動を促すことができるようにするため、以下の点に留意しながらマルチメディアを用いた学習支援ソフトを作成・活用していく。

Web形式での作成

本教材は「操作が容易であり、情報を引き出しやすいこと」「教材として保管しやすく、現在の地域の様子を資料として保存したり、地域の変化

に対応した情報に更新したりしやすいこと」「コンピュータに親しみ、日常の授業で使えるようにすること」などを考え、Web形式で作成することとする。

利用の仕方と工夫

本教材は、学習の導入段階で活用するものとし、生徒の学習に対する興味・関心を高めるとともに、自己の学習課題を設定しやすくさせるものとして作成に当たる。したがって地図や静止画・動画などを多く用いるとともに、それらを関連付けられるよう提示の仕方を工夫する。また普段見慣れた場所であっても、「なぜ？」という視点で問題意識を持って見ることができるよう工夫する。

利用上の留意事項

学習を進めるにあたっては、Web形式の教材を利用するだけでなく、適宜ワークシートなどを用いて総合的に学習が進められるようにする。

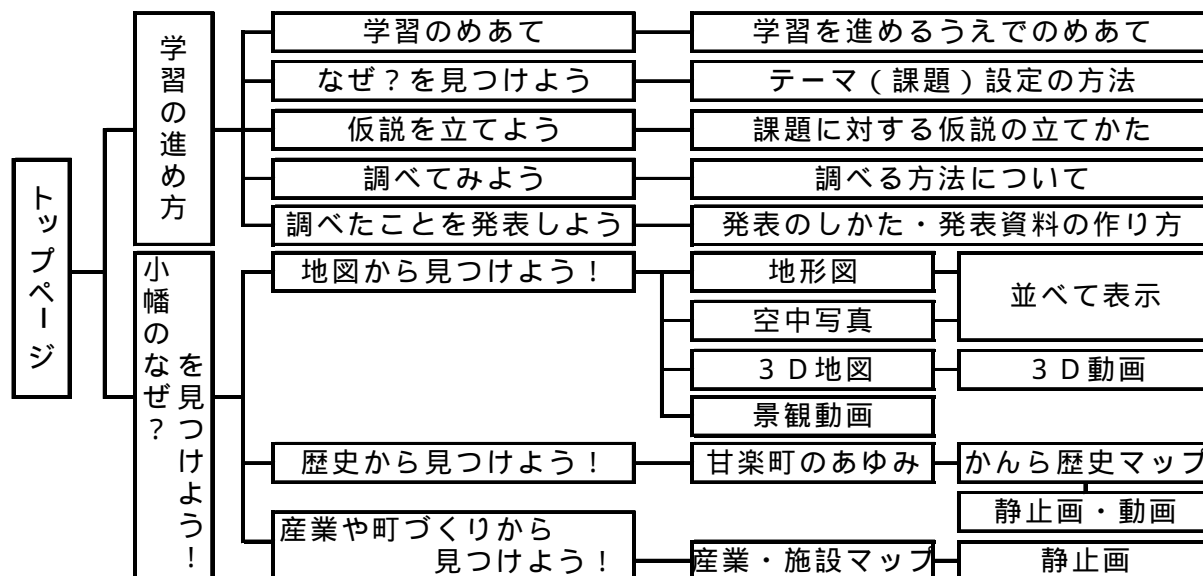
(2) 「小幡のなぜ？を調べよう！」の構成
図1のような構成で教材を作成した。

2 「小幡のなぜ？を調べよう！」の内容

(1) トップページ

トップページでは、甘楽町の象徴である桜の花をテーマに、生徒たちの見慣れた「中小路」の静止画が示され、カーソルをあわせると鎧姿の武者やさまざまな静止画がロールオーバー効果で表示されるようにし、生徒の興味を引き付けるようにした(図2)。ページ下部からは「学習の進め方」「小幡のなぜ？を見つけよう！」のページにそれぞれリンクを設定した。

図1 構成図



(2) 「学習の進め方」のページ

学習を進めるに当たって、また本教材を効果的に活用させるために、学習の流れを把握するためのページを作成した(図3)。

ア 学習の目当て

学習の目当てを示すとともに、親しみを持たせるために案内役としてのカラスを登場させた。

イ なぜ?を見つけよう!

課題設定の手助けとするために、本教材の活用の仕方や「なぜ?」をキーワードとした課題の見付け方を説明した。

ウ 仮説を立てよう!

自分の設定した課題をもとに班を編成することや、自分が設定した「なぜ?」に対する答え(仮説)を立てることを説明した。

エ 調べてみよう!

実際に調べる方法として、「地形図」「文献資料」「インターネット」「校外調査」「聞き取り調査」などの方法や、調べる際の注意点を説明した(図4)。

オ 調べたことを発表しよう!

調べたことをまとめたり発表したりする方法について説明した。まとめ方では「テーマ」「自分たちで立てた仮説」「調べた結果」を、地図やグラフ・静止画や絵などを用いて、相手に分かりやすく発表できるように注意を促した。発表の方法ではコンピュータ(プレゼンテーションソフト)や模造紙等の紙面での発表、両者を併用した方法などを紹介し、注意点を説明した。

(3) 「小幡のなぜ?を見つけよう!」のページ

生徒が自分の課題を設定するうえでの支援となるように、地図や静止画・動画を用いることで「なぜ?」という観点で見ることができるよう工夫したページを作成した。

ア 地図から見つけよう!

地図などをもとに課題を見付けることができるように、「地形図」「空中写真」「3D地図(動画)」「学校の屋上からの景観動画」などが見られるようにした(図5)。地形図と空中写真は並べて見比べることもできるように配置を工夫し、3D地図には鳥の視線で上空から眺めることができる動画も付け加えた。実際の景観を映した動画と様々な地図などを見比べながら、地形の特色をとらえることができるように工夫した。また、生徒が素朴な疑問をもつことができるように、過度の説明的な文章は省略した。

図2 トップページ



図3 学習の進め方のページ

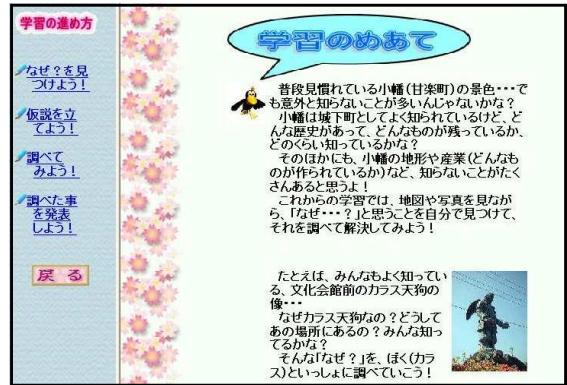


図4 調べてみよう!のページ



図5 地図から見つけよう!のページ



国土地理院の地形図及び空中写真を使用

イ 歴史から見つけよう！

歴史的な遺構や遺物が数多く残されているという地域の特性を生かして、歴史の面から課題を見付けることができるようにした。「甘楽町のあゆみ」(図6)では、学習を進めるうえでの基礎的な知識となる甘楽町の歴史を概観し、「かんら歴史MAP」(図7)では代表的な歴史スポットを静止画や動画で紹介した。ここでも過度な説明は省略し、生徒が「なぜ?」という視点でコンテンツを見ることができるよう配慮するとともに、随所に「?」マークを用いて課題を見付ける参考になる文を入れた(図8)。

ウ 産業や町づくりから見つけよう！

「地図」・「歴史」以外の観点として、「産業(土地利用)」「施設」の二つの観点で課題が見付けられるよう甘楽町の地図をもとにしたコンテンツを用意した(図9)。「産業(土地利用)」では、土地利用図をもとに地形と農業との関係が考えられるように工夫した。「施設」では官公署や町の施設などを提示し、普段よく利用し見慣れた施設などについて、見直したり関連を考えたりできるようにした。また、主な工場やスーパー、コンビニなどを地図中に示し、町全体の産業の特色や分布を考えられるきっかけになるように工夫した。

3 実践の結果と考察

(1) 授業実践の方法

本教材を活用した授業を実施するに当たり、その実施時期がすでに第1学年において学習済みの時期であったため、今回は第2学年において教材を活用して学習課題を設定する場面(2時間)および第3学年選択社会科の生徒への発展学習(7時間)として授業を実施し、検証を行った。

(2) 第2学年での実践

本校第2学年(58名)の授業において、本教材を活用して学習課題を設定する授業(2時間)を行った。

事前アンケートでは、小幡(甘楽町)のことを「好き」だと答える生徒が多い反面、「よく知っている」と答えた生徒は1名しかおらず、地域に愛着はあるが詳しいことは知らないという実態が明らかになった。さらに、「興味のあることはどんなことですか」という問いには3割程度の生徒しか答えず、「特にない」という生徒が半数近くにのぼった。

授業では学習の流れについて概要を説明したあ

図6 歴史から見つけよう！のページ

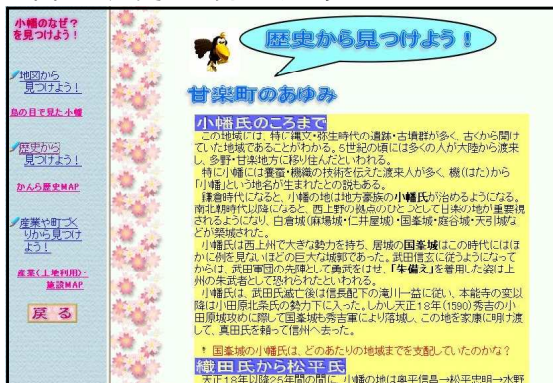


図7 かんら歴史MAP



図8 かんら歴史MAPのリンク先



図9 産業や町づくりから見つけよう！のページ



と、教材の活用方法について解説し、自由に閲覧させながら興味・関心がある点や気付いたことをワークシートに記入させた。その後、同様にワークシートに「なぜ...」という書き出しで課題を見付けさせ、その中から自分の調べたい課題を選んでいけるようにさせた。

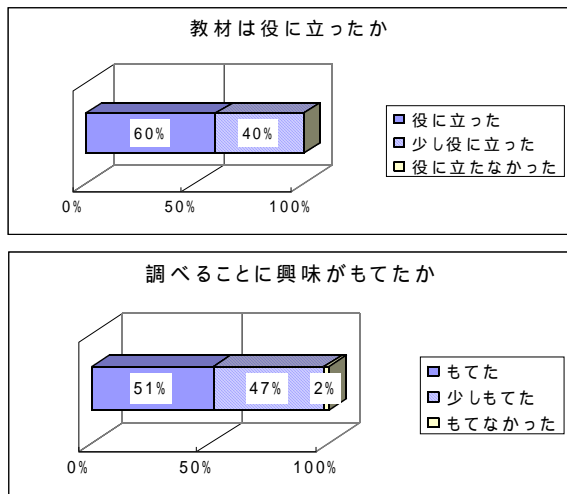
生徒たちは興味・関心が「ない」と答えていた生徒でさえも食い入るようにコンピュータの画面を見つめていた(図10)。

図10 教材を活用している様子



また、複数の項目をワークシートに記入することができた。授業後の自己評価を見ても、「本教材を使ったことが、課題を見付けるために役に立ちましたか」という問いに対して、半数以上の生徒が「役に立った」と答えており、「今後の調査活動に対して、興味をもてましたか」という問いに対しても、半数の生徒が「もてた」と答えている(図11)。

図11 自己評価の結果(2年生)



生徒の感想の中にも、「なぜ?って思えることがいっぱいできた。」「今まで興味のなかったことでも、これを見て気になってきた。」「甘楽町に住んでいる者として、もっと知りたい。」「早く調べたくなってきた。」などという意見が多く見られた。

(3) 第3学年選択社会科での実践

選択科目で社会科を履修している生徒(17名)

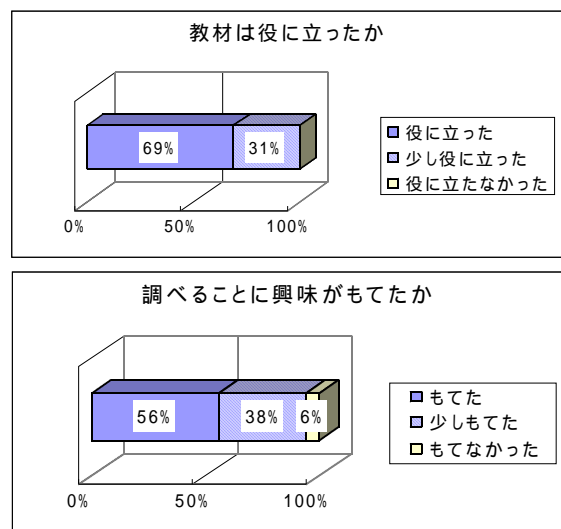
に対して、本教材を用いての授業を行った。本単元は1年生ですでに学習済みであることと、週1時間の授業であることを考慮し、簡略化した指導計画のもとでの授業となった。

事前アンケートを実施したところ、小幡(甘楽町)のことが「好き」と答える生徒が半数以上で、「嫌い」と答える生徒はいなかった。しかし、甘楽町のことを「ほとんど知らない」という生徒が4割ほどおり、興味が「ない」と答える生徒が半数をこえた。

ア 学習課題を設定する段階

生徒は興味・関心をもって学習に取り組んだ。ほとんどの生徒が意欲的にワークシートに書き込みを行い、自己の学習課題の設定を行うことができた。本教材が「課題を見付ける役に立ちましたか」という問いには、7割程度の生徒が役に立ったと答えており、「今後の調査への興味」についても6割近くの生徒が「もてた」と答えた(図12)。

図12 自己評価の結果(3年選択社会)



生徒の感想としても「意外と知らないことが多いことに気付いた。」「普段あまり意識していないが、知らないことが多く、調べてみたくなった。」などが出された。

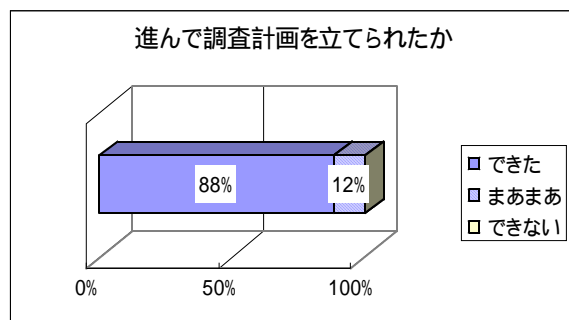
イ 仮説を立て、調査計画を立てる段階

前回の授業で設定した自己の課題をもとに、グループ分けを行った結果、大きく5つのテーマで調査をしていくことになった。ここではグループのテーマに対しての仮説を皆で話し合い、どのように調査していったらよいか計画を立てさせた。

仮説を立てる話し合いでは活発に意見交換がなされ、ユニークな意見も出された。調査の方法に

ついても、近所のお年寄りに聞くなど、さまざまな意見が出された。自己評価の結果を見ても、「進んで調査の計画を立てることができましたか」という問いに対して、ほとんどの生徒が「できた」と答えている（図13）。

図13 自己評価の結果



ここでは前回、調査活動に対する興味が「もてなかった」と答えた生徒も、「だんだん興味がわいてきた。」と答えており、更に「いつ調査に行くのですか。」と、意欲的な生徒が現れてきた。

ウ 調査活動を実施する段階

実際の調査活動は、歴史民俗資料館やお寺などを訪問し、施設を見学したりお話を伺ったりする形で行った（図14）。

図14 調査活動のようす



生徒たちは事前に用意した質問以外にも、積極的に質問し真剣にメモを取っていた。その結果ほとんどの生徒が自己評価で積極的に調査活動ができたと答え、「まだ不十分、もっと調べたい。」という生徒も数名見られた。

エ レポートをまとめ、発表する段階

調べてきたことをもとに、プレゼンテーションソフトを用いて簡単な発表会を実施した。発表は文字を中心に写真や資料を用いてスクリーンに映

して行った。

事後の自己評価では、「小幡(甘楽町)に対する理解が深まりましたか」という問いに、すべての生徒が「深まった」と答えている。また、今回のように自分で調べてみたい場所として、北海道や沖縄、イギリスやドイツなどがあげられた。

(4) 考察

学習を進める中で、商店の分布を調べたグループは道路や交通量の面に着目し、地形や交通、人口などが地域の特性と深く結びついていると考えるきっかけをもつことができた。また磨崖仏を調査したグループは、周辺の岩が富岡製糸場の礎石に使われたことを知り、その理由や運搬方法などを新たな学習課題として設定することができた。

以上のように、本教材は生徒の興味・関心を引き起こし、課題設定から調査活動、レポートの作成や発表といった一連の学習活動に、意欲をもって自ら取り組ませるために有効であったと考える。また、身近な地域の地理的事象に対する関心を高めることにも有効であったと考える。

研究のまとめと今後の課題

実践の結果でも述べたとおり、マルチメディアをさまざまな視点から生徒に提示し、「なぜ？」という視点で生徒に課題意識をもたせる本教材の活用により、生徒は地域への興味・関心を高めることができた。また、生徒が意欲をもって自ら学習活動を進めることができ、本単元の目標に迫ることができたと考える。

今後の課題としては、生徒の実態や地域の変化に合わせて教材のコンテンツを修正していくこととともに、今後の地理的分野の学習につなげられる要素や視点をさらに盛り込んでいくことが必要と考える。

<参考文献>

- ・杉本 智彦 著 『すぐできるカシミール3D 図解実例集 初級編』 実業之日本社(2004)
- ・山口 太一 画 『まんが甘楽町の歴史』 上毛新聞社(1995)

<使用ソフト>

- ・IBMホームページビルダー Version 8
- ・カシミール3D Ver8.6.7

(担当指導主事 小池 千秋)